For Safety Driving

Drive Recorder

ドライブレコーダー
KURUMAME
解析ツール
取扱説明書

KYB

∽ 目 次 ∽

ドライブレコーダー解析ツール使用上のご注意 ―――― 4

健康上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
取り扱い上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
保管上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
運用上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
ユーザー使用許諾契約 User License Agreement・・・・・・・・ 6

ご使用の前に・・・ ―――― 8

ドライブレコーダー解析ツールとは・・・・・・・・・・・・・・ 8
主な機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
動作環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
ドライブレコーダー使用開始までの流れ ・・・・・・・・・・・ 9
CFカードリードライターの接続 ・・・・・・・・・・・・・・・ 10
CF カードの初期設定について ・・・・・・・・・・・・・・・ 10
フォーマット方法 …… 10
解析ツールでの初期設定 …… 10

インストール方法 ―――― 10

WindowsXP/2000 の場合のインストール開始 …… 10
WindowsVista の場合のインストール開始 …… 12

起動と終了 ―――― 14

「ドライブレコーダー解析ツール」の起動は ・・・・・・・・・・ 14
「ドライブレコーダー解析ツール」の終了は ・・・・・・・・・・ 14

アンインストール方法 ―――― 14

号車管理と本体データ設定・時刻設定 ―――― 15

設定手順…… 15
①「号車管理」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
1 管理IDの追加 …… 15
2 管理IDの追加 エコ …… 16
②「データ設定」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
設定前の準備…… 17
簡易設定項目の説明 …… 17
詳細設定項目の説明 …… 20
③「走行情報出力設定」 エコ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
④「時刻設定」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
CFカードへの時刻設定 …… 23
ドライブレコーダー本体への時刻設定…… 23

「読取」 ―――― 24

記録画像ファイル読取り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
CFカード内の画像ファイル削除 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
「再生」 ―――――――――――――――――――――――――― 26
操作・表示一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
「ファイル編集」 ―――――――――――――――――――――――― 27
検索メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
危険度検索 …… 27
画像ファイルの表示・再生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
画像表示・リスト表示 …… 28
編集メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
ドライブ使用率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
走行情報出力 エコ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
◉「ドライブレコーダー帳票」選択画面表示 …… 31
①「運転状況グラフ」の表示と印刷 …… 31
②「速度超過チェック表」の表示と印刷 …… 32
③「加減速チェック表」の表示と印刷 …… 32
④「アイドリングチェック表」の表示と印刷 …… 33
「安全講習会メニュー」 ―――――――――――――――――――― 34
質問文の変更登録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
安全講習会の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
読込みメニュー …… 34
安全講習会再生メニュー …… 35
画像ファイルの再生 …… 35
質問文の表示 …… 35
メニューバーの説明 ―――――――――――――――――――――― 36
管理者パスワードの変更 ―――――――――――――――――――― 36
データのバックアップ ―――――――――――――――――――― 36
重要保存フォルダのバックアップ …… 37
設定値・画像ファイルのバックアップ …… 37
トラブルシューティング ―――――――――――――――――――― 37
解析ツール起動時のトラブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
画像ファイルのトラブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
ドライブレコーダー設定のトラブル ・・・・・・・・・・・・・・ 39
用語解説 ―――――――――――――――――――――――――― 40
サポートカルテ ―――――――――――――――――――――――― 41
製品保証書 ―――――――――――――――――――――――――― 42

このたびは、「KYBドライブレコーダー クルマメ」をお買い上げいただきありがとうございます。本マニュアルは、「ドライブレコーダー解析ツール」のご利用方法、操作手順、操作画面、ドライブレコーダーの設定方法について説明しています。ご使用になる前に最後までよくお読みになり、使用許諾契約を十分にご理解の上ご使用下さい。またお読みになった後は、いつでもみられるところに必ず保管して下さい。

ドライブレコーダー解析ツール使用上のご注意

⚠ 警告	このディスクは「CD-ROM」です。一般オーディオ用 CD プレーヤーでは絶対に再生しないで下さい。大音量によって耳に被害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。
⚠ 注意	プラスチックケースの上に重い物を置いたり落としたりしないで下さい。ケースが破損して、けがの原因になることがあります。

健康上のご注意

- ごくまれに強い光の刺激や点滅、モニターなどを見ていて、一時的に筋肉のけいれん・意識の喪失等の症状を起こす方がいます。こうした経験のある方は、このソフトを使用する前に必ず医師と相談して下さい。また、使用中にこのような症状が起きたときは、すぐに使用をやめ、医師の診察を受けて下さい。
- このソフトを使用するときは、部屋を明るくし、なるべくモニターから離れて下さい。また、健康のため、1 時間ごとにに 10 ～ 20 分間の休憩をとり、疲れている時や睡眠不足での使用は避けて下さい。

取り扱い上のご注意

- ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズ等を着けない様に取扱って下さい。
- ディスクが汚れた時は、メガネ拭きの様な柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。
- ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。
- ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは危険ですから使用しないで下さい。

保管上のご注意

- 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。
- ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。

運用上のご注意

記録について

- ドライブレコーダー本体は解析ツールにより設定を行ないます。 設定状況によっては、映像が記録されない場合があります。
- 衝撃時の状況によっては、 映像が記録されない場合があります。

CFカードについて

- CFカード内の設定データは各車両固有のものとなっております。 車両の設定データが入ったCFカードを他の車両で使用しないで下さい。 正しい記録ができなくなります。

ドライブレコーダー消耗品について

- CFカードは消耗品です。 耐用年数は毎日使用した場合約一年間です。 一年間ごとに弊社指定品と交換して下さい。

HASP（ハスプ）キーについて

- 同梱のHASP（ハスプ）キーは解析ツール使用時に必ず必要になりますので、紛失しないように管理して下さい。

許容コンピューター数：1 台

ユーザー使用許諾契約 User License Agreement

ユーザーの皆様へのご注意：

本ユーザー使用許諾契約（以下「本契約」）はお客様と日本国の KYB 株式会社（以下「KYB」）との間の契約書であり、KYB が提供する本ソフトウェア（以下に定義）をお客様がインストールまたはご使用いただく場合の条件を規定するものです。必ず内容をよくご確認下さい。お客様がこのパッケージを開封されますと、お客様によって本契約のすべての条項に同意いただけたものとみなさせて頂きます。
下記の条項に同意できない場合は、本ソフトウェアをインストールまたは使用することはできません。
また、下記の条項に同意できない場合において、システムを含めた装置に関する取り外し等の実質的作業が発生した場合の発生費用はお客様のご負担となります。

本契約において「本ソフトウェア」とは、本契約と一緒にお客様に提供された CD-ROM の記憶媒体に含まれている（i）KYB または第三者のアプリケーションプログラム（以下「アプリケーションプログラム」）、（ii）デジタルイメージ、またはその他の創作物（以下「ストックファイル」）、（iii）関連する説明資料（以下、「ドキュメンテーション」）、などを含みます。本契約において「許容コンピューター台数」とは左上に表記されている台数を指します。

1. 使用範囲

1.1 お客様はアプリケーションプログラムを許容コンピューター台数までのコンピューターのハードディスクまたはその他の記憶装置にインストールして使用することができます。

1.2 お客様はバックアップ用に本ソフトウェアを 1 つ複製することができます。ただし、お客様のバックアップ用の複製物はいかなるコンピューターにおいてインストールあるいは使用されないことを条件とします。

2. 著作権

本ソフトウェア（その複製物も含む）は KYB 及びそのサプライヤーの所有物であり、本ソフトウェアの構造、編成、コードは KYB 及びそのサプライヤーの業務上の重要な機密事項にあたります。本ソフトウェアは日本国の著作権法ならびに国際条約の保護を受けており、書籍その他の著作物と同じに扱わなければならない性質のものです。本ソフトウェアの複製は「使用範囲」の項で定めた場合を除いて禁じられています。本契約にもとづいて作成された複製物には、本ソフトウェア上またはその中に明記されている著作権表示その他の財産権の表示と同じものを含めなければなりません。お客様は、本ソフトウェアを変更、改作、翻訳、リバースエンジニア、デコンパイル、ディスアセンブルしないこと、またはその他の方法でソースコードを解明しようと試みないことに同意します。商標は、商標の所有者名を明示し、容認された商標慣行に従って使用されるものとします。商標の使用は、本ソフトウェアによって生成された印刷出力の識別を目的とする場合に限られます。いかなる商標であっても、こうした使用によって当該の商標の所有権がお客様に付与されることはありません。
上記の場合を除いて、本契約は本ソフトウェアに関するいかなる権利をも付与するものではありません。
本契約は本ソフトウェアの使用に係わる条件を規定するもので、本ソフトウェアの売買を規定するものではありません。

3. 譲渡

お客様はいかなる場合も本ソフトウェアを貸与、レンタル、リース、使用許諾することはできません。本ソフトウェアの譲渡については、お客様が KYB 所定の手続に従って申請され、その申請手続において（1）お客様がご自身の名義ですでにユーザー登録をしていること、（2）お客様より譲受ける第三者が本契約の諸条件について書面により同意していること、（3）本ソフトウェア、すべての旧バージョン（本ソフトウェアが前バージョンの修正版、アップグレード版、アップデート版または追加版（以下総称して「アップデート版」）である場合）、及びそれらの複製物の全てと本契約上の地位をお客様が当該第三者に譲渡または移転すること、ならびに（4）お客様が譲渡しなかった複製物の全てを破棄することについてお客様が同意または証明した場合、に限り KYB が認める態様にて譲渡することができます。

4. 複数環境ソフトウェア／複数言語ソフトウェア／複数媒体ソフトウェア／複製物／アップデート版

本ソフトウェアが複数のプラットフォームや言語環境に対応する場合やお客様が 2 種以上の記憶媒体に収められた形で本ソフトウェアを受け取った場合、またはお客様がその他の方法で本ソフトウェアの複数の複製物を受け取られた場合には、本ソフトウェアのすべてのバージョン、記憶媒体及びコピーが使用されることになるコンピューター台数は許容コンピューター台数を上回ってはなりません。ご使用にならない本ソフトウェアのバージョンまたは複製物、またはご使用にならない記憶媒体に収められた本ソフトウェアのレンタル、リース、使用許諾、貸与または譲渡はできません。本ソフトウェアがアップデート版である場合、お客様が前バージョンについて正規ライセンスを取得していないときはいかなる場合においても本ソフトウェアをインストールして使用することはできません。お客様が前バージョンについて正規ライセンスを取得している場合に限りお客様は本契約に従って本ソフトウェアを使用できるものとし、前バージョンについては本ソフトウェアの入手時から 90 日間、前バージョンからアップデート版の使用へ移行することを目的として使用を継続することができます。この期間を過ぎた場合お客様はアップデート版をインストールする以外の目的で前バージョンを使用することはできないものとし、必ず前バージョンを破棄していただくものとします。

5. 保証の放棄

本契約第7条に定める限定保証を除いて、KYB 及びそのサプライヤーは、第三者の権利の不侵害、商品性または特定目的への適合性に関するいかなる明示または黙示の保証も致しません。黙示の保証は、それがなされたものと見なされる場合でも、すべて 1 年間に限られます。KYB 及びそのサプライヤーは本ソフトウェアの性能またはその使用により得られる結果について保証いたしません。黙示の保証は、それがなされたものと見なされる場合でも、すべて 1 年間に限られます。国または法域によっては黙示の保証を除外すること、保証期間を制限することがあり、上記の保証の制限はお客様に適用されない場合があります。法令が認める範囲にていかなる黙示の保証期間は 1 年間までとします。

6. 免責

6.1 KYBは、本ソフトウェアの使用もしくは使用不能により、お客様または第三者に生じた特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、またはその他の一切の損害（逸失利益、事業の中断、プライバシーの喪失、誠実または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、人身傷害、またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません。）に関して一切責任を負いません。

6.2 KYBは、本ソフトウェアに誤記、脱字等による表記上または内容上の誤りがあったとしても、本ソフトウェアの交換、補修、代金返還等には応じることはできません。

7. 責任の限度

KYB またはそのサプライヤーは、本ソフトウェアのインストールまたは使用に関連してお客様に直接的または間接的に発生する一切の損害（ハードウェア、他のソフトウェアの破損、不具合等を含む。また、通常損害、特別損害、結果損害を問わない）について一切責任を負いません。本項はお客様の法律上の権利行使を制限するものではありません。

8. 準拠法及び雑則

本契約は、日本法を準拠法とします。本件ソフトウェアは、日本国の輸出管理法、その他の関連法令・規則で禁止されている国へは輸出されないものとし、またかかる法令・規則で禁止されている態様で使用されないものとします。本契約は、お客様が本契約に違反した時点で自動的に解除されるものとし、この場合お客様は本ソフトウェアのすべての複製物を破棄するものとします。KYB の役員が署名した書面によって KYB がその明確な同意を与えない限り、本契約条項のいかなる変更も KYB に対して効力を有しないものとします。ただし、本ソフトウェアのアップデート版を KYB がお客様に使用許諾する際、KYB はかかるアップデート版の使用に関し本契約の条項を変更することができるものとします。

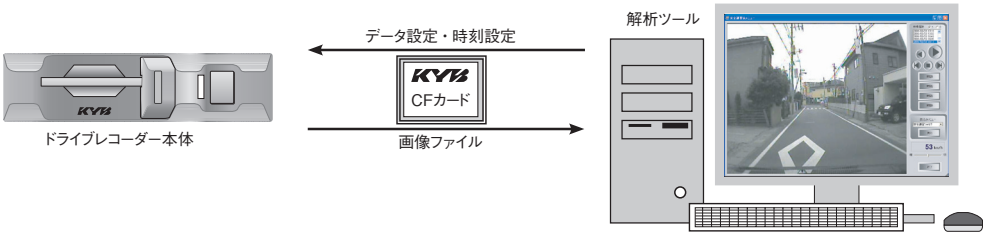
9. KYB 及びそのサプライヤーの権利

操作盤画面及び機能の全ては KYB 及びそのサプライヤーの貴重な財産であり、サプライヤーは、KYB とのライセンス契約に加えてそれ自身のライセンス契約条項を行使する権利を保有しています。

ご使用の前に・・・

ドライブレコーダー解析ツールとは

本ソフトウェアは、ドライブレコーダーで記録した画像ファイルの解析・表示を行うためのものです。また、簡単な操作で乗務員の安全講習を行うことができ、安全意識向上と事故防止活動に活用して頂けます。



主な機能

（1）画像ファイルの解析・表示

ドライブレコーダーにて記録された画像ファイルを解析し動画で表示します。速度表示・加速度も画面上で確認ができます。

（2）画像ファイルの編集管理

ドライブレコーダーにて記録された画像ファイルを編集管理します。

保存フォルダ・記録日・車両番号・危険度別に保存ファイルを検索できます。さらに必要なファイルの振り分け保存、不要なファイルの削除を行えます。

（3）安全講習会の実施

ドライブレコーダーで記録した画像ファイルを使って、容易に安全講習会を行うことができます。詳しくは、34ページ「安全講習会メニュー」をご覧下さい。

（4）走行情報の表示・帳票印刷 エコ

CFカードに記録された走行情報を元に、運転状況グラフ・速度過チェック表・加減速チェック表・アイドリングチェック表を表示し、帳票を印刷することができます。

注意：
本文中に「エコ」マークの記載がある説明内容は、解析ツール Ver 3.0以上でドライブレコーダー本体形式がDRE−120の場合にのみ使用できる機能です。

動作環境

本ソフトウェアを使用するためには、以下の動作環境が必要です。

OS：Microsoft ®Windows®2000（SP4），Windows®XP/Professional Edition/Home Edition，Windows® Vista Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate 日本語版※（各 OS 共、64bit 版には対応しておりません。）

.Net Framework1.1（.Net Framework1.1 がインストールされていないパソコンの場合、本ソフトウェアインストール時に .Net Framework1.1 が自動でインストールされます。）

CPU：Intel Pentium4　1.3GHz 以上または、互換CPUを持つ IBM PC/AT 互換機

メモリ：Windows®2000 及び Windows®XP：512MB 以上（推奨）、WindowsVista：1GB 以上（推奨）

HDD：ソフトウェアのインストールに20MB 以上必要、ファイルの保存にはファイルサイズに対応する空き容量が必要

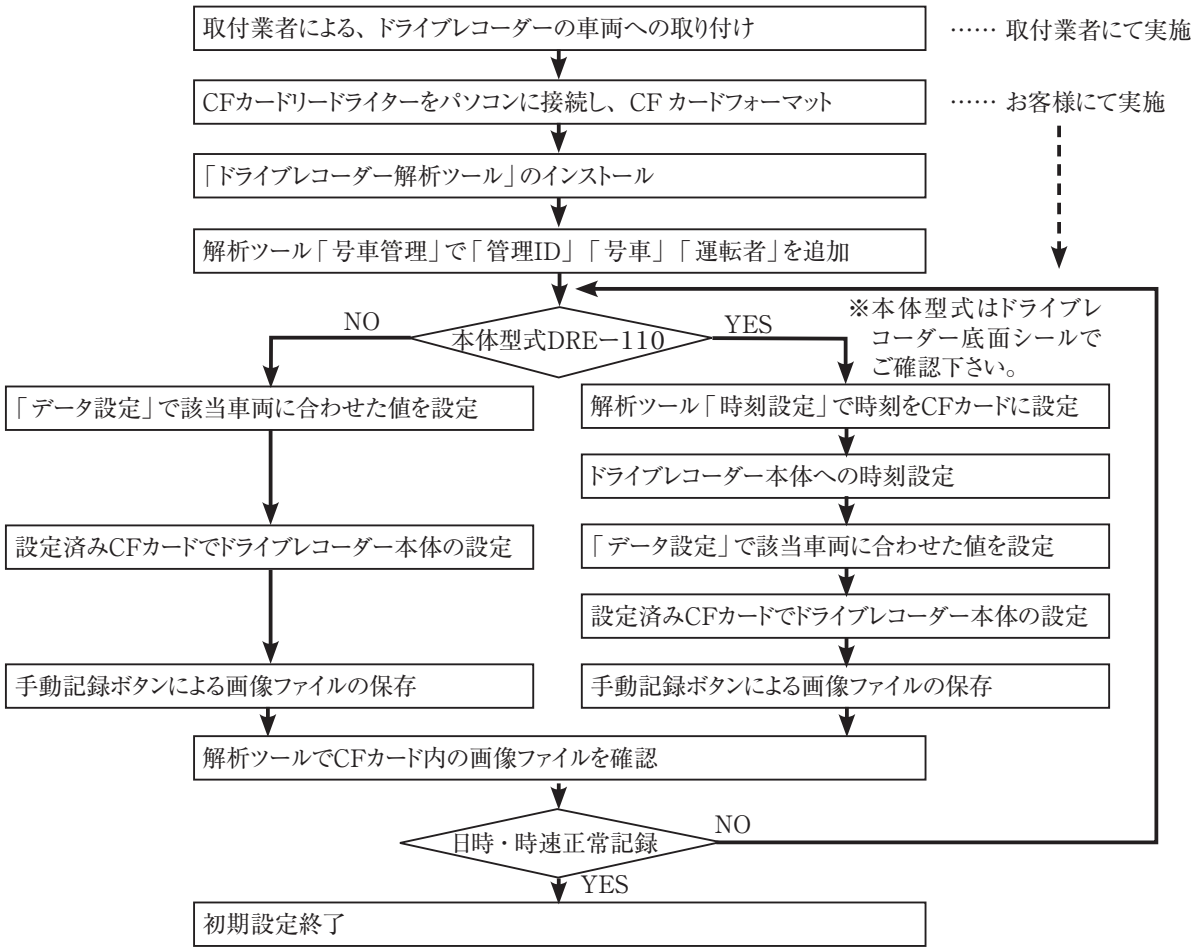
CDドライブ：ソフトウェアインストール時に必要、ファイルのバックアップには書き込みソフトとCD-R ドライブ等が必要です。

I/O:USB ポート（解析ツール用 HASP（ハスプ）キー、CFカードリードライターで使用）が必要。

※ Microsoft、Windows、.Net Framework は米国 Microsoft 社の社名及び登録商標です。
※ Intel、Pentium は米国 Intel 社の社名及び登録商標です。
※ HASP は Aladdin Knowledge Systems 社の登録商標です。

別途、CFカードリードライターもご用意下さい。

ドライブレコーダー使用開始までの流れ



CFカードリードライターの接続

Windows を起動後に、パソコンの USB ポートにCFカードリードライターのケーブルを接続して下さい。自動的にドライバのインストールが始まります。インストール終了後に「マイコンピュータ」を開き「リムーバブルディスク」のアイコンが追加されていることを確認して下さい。
※詳細につきましてはCFカードリードライター付属の取扱説明書をご覧下さい。

CF カードの初期設定について

フォーマット方法

「マイコンピュータ」→「リムーバブルディスク」を右クリック→フォーマット
ファイルシステムは「FAT32」、ボリュームラベルは該当「号車」等を入力（推奨）して下さい。

解析ツールでの初期設定

15ページの「号車管理と本体データ設定・時刻設定」を参照して下さい。

インストール方法

WindowsXP/2000 の場合のインストール開始

解析ツールのインストールは管理者“Administrators”グループのユーザーで行って下さい。
インストールを始める前には、他の全てのアプリケーションを終了してから実行して下さい。

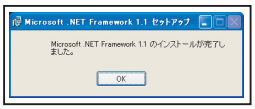
ドライブレコーダー解析ツールのインストールCDをCDドライブにセットして下さい。自動インストールが開始します。

※自動インストールが開始されない場合、「マイコンピュータ」→「 CDドライブ」→「Setup.exe」をダブルクリックして下さい。※拡張子が非表示の場合は Setup と表示されます。

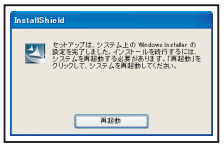
「セットアップ」が始まりますので、画面の指示に従って進めて下さい。
Microsoft.Net Framework1.1 がコンピュータにインストールされていない場合は①に進みます。
Microsoft.Net Framework1.1 が既にコンピュータにインストールされている場合は②に進みます。

① .Net Framework1.1 がパソコンにインストールされていない場合のインストール手順

「同意する(A)」にチェックを入れて
【インストール(I)】をクリック

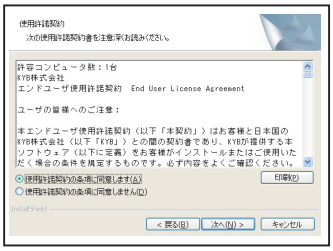


【OK】をクリック

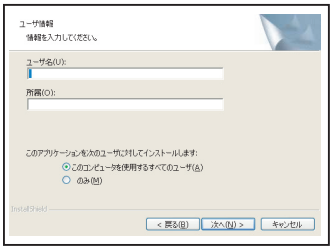


【OK】をクリックして再起動後に、
②のインストール手順に移ります

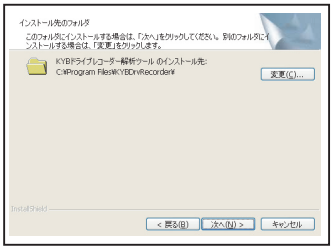
② .Net Framework1.1 が既にパソコンにインストールされている場合のインストール手順



使用許諾に同意を頂けましたら
「… 同意します」にチェックを入れて
【次へ(N)】をクリック

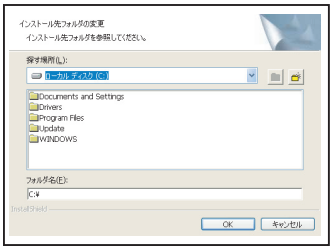


ユーザー名と所属を入力し、「このコンピューターを…」のチェックを推奨
【次へ(N)】をクリック



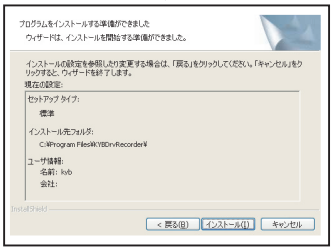
インストール先を変更しない場合（推奨）は【次へ(N)】をクリック、もし変更する場合は【変更(C)】をクリック

【変更(C)】

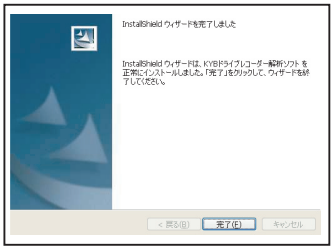


【変更(C)】をクリックした場合は、インストール先を指定して【OK】をクリック
前画面に戻り【次へ(N)】をクリック

【次へ(N)】

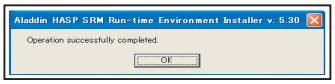


インストール先やユーザー情報を確認後に
【インストール(I)】をクリック
データのバックアップ等の為に、インストール先は忘れないようにして下さい。



【完了(F)】をクリック

HASP（ハスプ）ドライバのインストール



【OK】をクリック

デスクトップにショートカットが作成されます。

以上で、インストールは完了です。

全ての表示を閉じて、パソコンを再起動させて下さい。

WindowsVista の場合のインストール開始

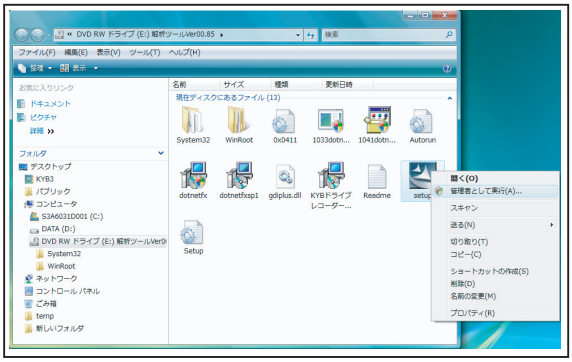
・解析ツールのインストールは管理者“Administrators”グループのユーザーで行って下さい。

・全角文字や半角ｶﾀｶﾅを使用したユーザーアカウント名（ログオン時に表示される名称）でインストールすることはできません。

・インストールを始める前には、他の全てのアプリケーションを終了してから実行して下さい。

Shift キーを押しながら、ドライブレコーダー解析ツールのインストールCDをCDドライブにセットして下さい。Shift キーを押し続けると「自動再生」画面が表示されますので、Shift キーを離して「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックします。

※インストールCDをCDドライブにセットしても、上記表示がされない場合は「Windows ボタン」をクリック、「すべてのプログラム」－「アクセサリー」－「エクスプローラ」をクリックして起動し、「コンピュータ」からCDドライブを選択することで下記画面が表示されます。



「setup.exe」を右クリックしてメニューを表示し「管理者として実行」をクリックします。

※拡張子を非表示に設定している場合は「setup」が二つ表示されます。「setup」アイコンにマウスを合わせたとき「種類」に「アプリケーション」と表示されるアイコンが「setup.exe」となります。

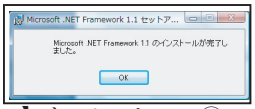
「ユーザーアカウント制御」のメッセージが出ますので、ファイル名が setup.exe であることを確認して、【許可 (A)】をクリックしてください。後は画面の指示に従って進めて下さい。

Microsoft.Net Framework1.1 がコンピュータにインストールされていない場合は①に進みます。

Microsoft.Net Framework1.1 が既にコンピュータにインストールされている場合は②に進みます。

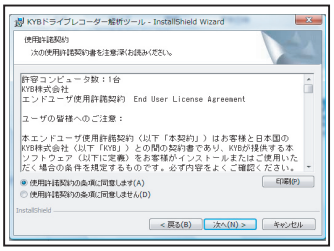
① .Net Framework1.1 がパソコンにインストールされていない場合のインストール手順

「同意する(A)」にチェックを入れて【インストール(I)】をクリック

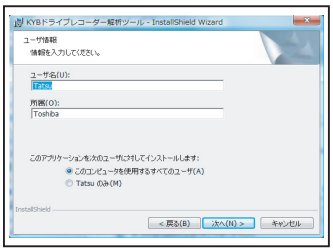


【OK】をクリックして、②のインストール手順に移ります

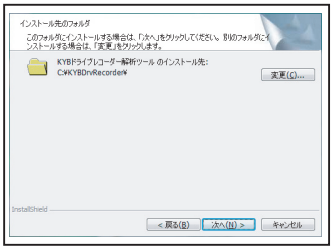
② .Net Framework1.1 が既にパソコンにインストールされている場合のインストール手順



使用許諾に同意を頂けましたら「... 同意します」
にチェックを入れて【次へ(N)】をクリック

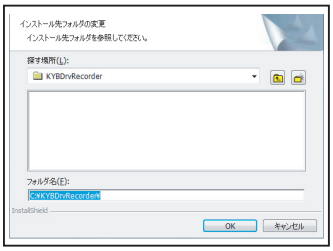


ユーザー名と所属を入力し、「このコンピューターを ...」のチェックを推奨【次へ(N)】をクリック



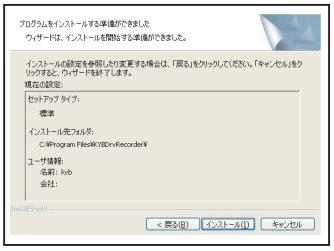
インストール先を変更しない場合（推奨）は【次へ(N)】をクリック、もし変更する場合は【変更(C)】をクリック

【変更(C)】

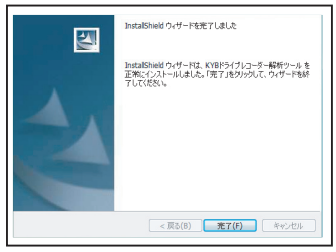


【変更(C)】をクリックした場合は、インストール先を指定して【OK】をクリック
前画面に戻り【次へ(N)】をクリック

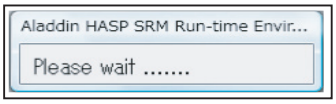
【次へ(N)】



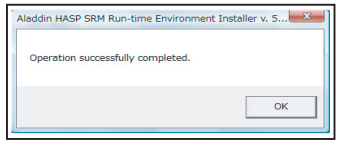
インストール先やユーザー情報を確認後に【インストール(I)】をクリック
データのバックアップ等の為に、インストール先は忘れないようにして下さい。



【完了(F)】をクリック



HASP（ハスプ）ドライバのインストール



【OK】をクリック

デスクトップにショートカットが作成されます。

以上で、インストールは完了です。

全ての表示を閉じて、パソコンを再起動させて下さい。

起動と終了

「ドライブレコーダー解析ツール」の起動は

USBポートに付属の解析ツール用 HASP（ハスプ）キーを差し込んで下さい。

デスクトップ上に作成されたショートカット「ドライブレコーダー解析ツール」をダブルクリックして下さい。

または、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム（Windows2000は「プログラム」）」→「ドライブレコーダー解析ツール」をクリックして下さい。ドライブレコーダー解析ツールのメイン画面が表示されます。

「ドライブレコーダー解析ツール」の終了は

ドライブレコーダー解析ツールを終了する場合は、右上の☒をクリックするか、ファイル メニュー内の一番下にあります『終了(X)』をクリックして下さい。

アンインストール方法

アンインストールを実行すると、解析ツールがハードディスク上から削除されます。十分にご注意下さい。

Windows2000 の場合: 「スタートメニュー」→「設定」→「コントロールパネル」の順でクリックして、「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。→①へ

WindowsXP の場合： [スタート] ボタン －「コントロールパネル」の順でクリックして、「プログラムの追加と削除」をクリックします。→①へ

WindowsVista の場合： 画面左下の [Windows] ボタン －「コントロールパネル」の順でクリックして、「プログラムのアンインストール」をクリックします。→①へ

①「KYB ドライブレコーダー解析ツール」を選択し「削除」をクリックして下さい。

②「コンピュータから KYB ドライブレコーダー解析ツールを削除しますか?」と表示されますので、【はい 】をクリックして下さい。

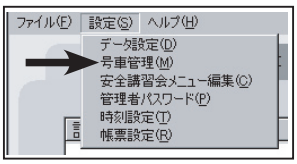
③ アンインストールが始まりますので、画面の指示に従って進めて下さい。

※記録ファイル（Daily_Report・SaveData・重要保存フォルダ・安全講習フォルダ内のファイル）は削除されません。

号車管理と本体データ設定・時刻設定

ここではお客様がお持ちの車両の号車管理とドライブレコーダーの機能設定を行ないます。

設定手順



①「設定メニュー」→「号車管理」にて、車両を識別する為の「管理 ID」「号車」や「運転者」の追加をします。

②「データ設定」で該当車両の値を設定し、CF カードに設定したデータを書き込みます。

③ CFカードを媒体として、設定したデータを当該車両のドライブレコーダー本体へ書き込みます。

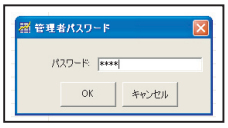
※設定データの書き込みは、CFカードをドライブレコーダー本体に挿入し、電源を入れる（エンジンキースイッチを ON する ）ことで自動的に行われます。

カメラの増設やトリガ判定閾値（しきいち）等の変更は、②の「データ設定」〔17ページ参照〕と③のドライブレコーダー本体への設定を行って下さい。

①「号車管理」

「設定メニュー」の中より「号車管理」をクリックして下さい。

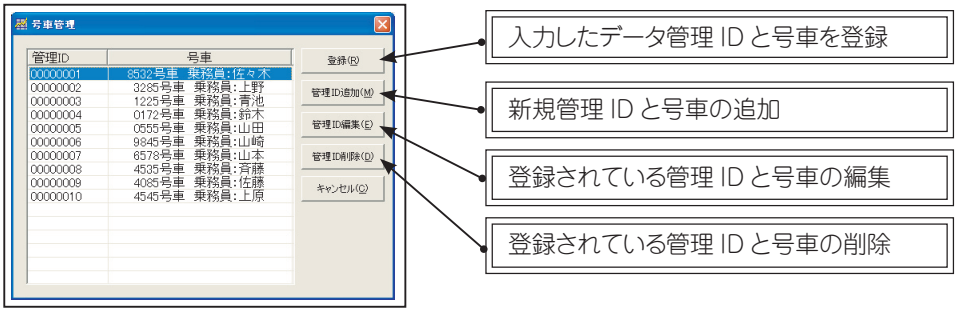
管理者パスワードの入力を求められますので入力して【OK】をクリックして下さい。



※パスワードの初期値は“0000”に設定してあります。
変更する時は36ページをご覧下さい。

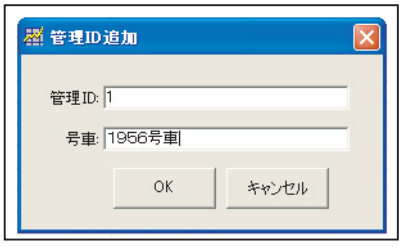
解析ツール Ver 3.0以上は **2** へ、それ以外は **1** へ進んで下さい。

1 管理IDの追加

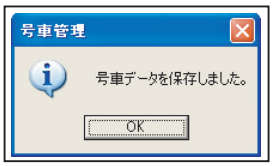


(1)【管理 ID 追加(M)】を選択して「管理 ID 追加」画面を表示します。

管理 ID を入力:半角数字8文字以内で入力します。
半角数字で「1」と入力すると前7桁の「0」は自動で付加されます。

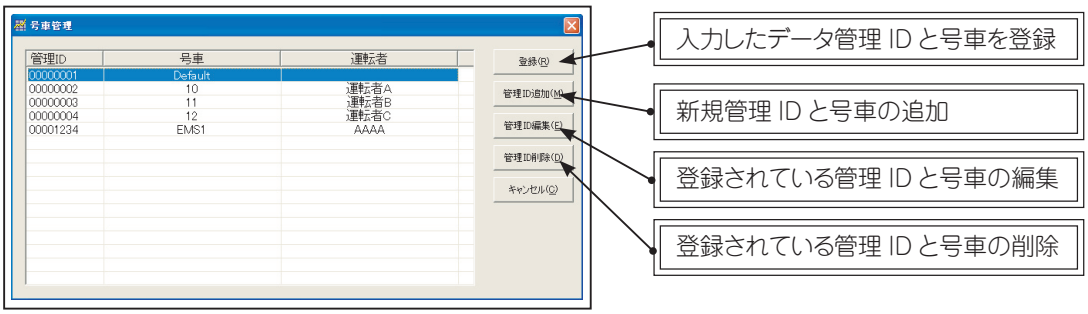


（2）号車を入力：全角か半角16文字以内で入力して下さい。
　　この号車欄には運用上分かりやすい名前をつけて下さい。例：1956号車　萱場 太郎
（3）ドライブレコーダーを装着する車両台数分の管理 ID を作成して下さい。
（4）最後に必ず【登録(R)】を選択して下さい。

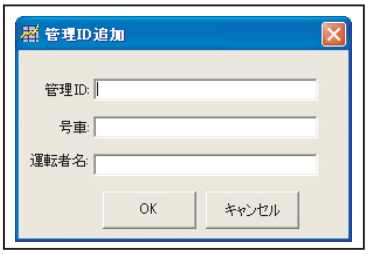


【OK】を押して号車管理画面を終了し、②「データ設定」へ進んで下さい。

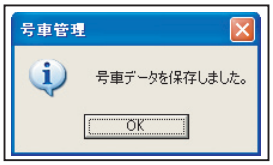
2 管理IDの追加 エコ



（1）【管理 ID 追加(M)】を選択して「管理 ID 追加」画面を表示します。
（2）「管理ID」「号車」「運転者名」を入力します。



管理ID:半角数字8文字以内で入力します。半角数字で”1”と入力すると ” 前7桁に ” 0”が自動で付加されます。
号車：全角文字8文字以内（半角文字16文字以内）で入力します。運用上分かりやすい名前を付けて下さい。（例：1956 号車）
運転者名：全角文字16文字以内（半角文字32文字以内）で入力します。運用上分かりやすい名前を付けて下さい。（例：萱場 太郎）
（3）ドライブレコーダーを装着する車両台数分の管理 ID を作成して下さい。
（4）最後に必ず【登録(R)】を選択して下さい。

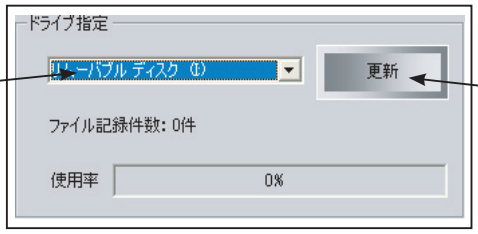


【OK】を押して号車管理画面を終了します。

②「データ設定」

設定前の準備

「読取」内でCFカードリードライターのドライブが認識されていることを確認して下さい。

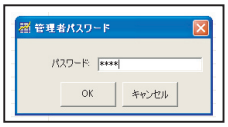


ドライブが表示されない場合や、CFカードリードライターが未接続の場合は接続後に【更新】ボタンを押してドライブ名を表示させて下さい。

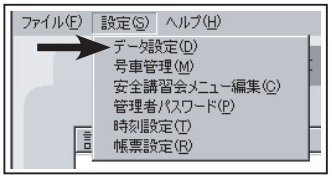
簡易設定項目の説明

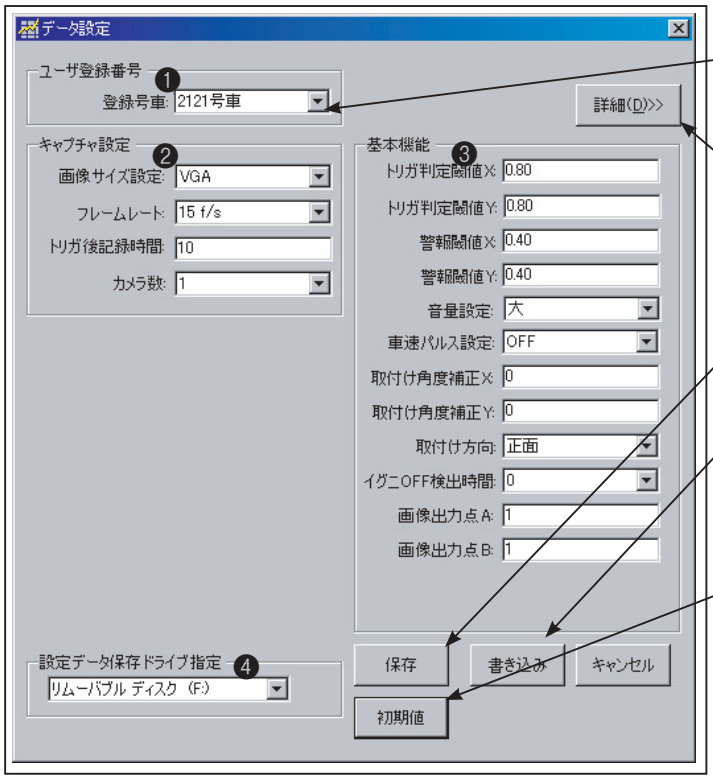
「設定メニュー」の中の「データ設定」をクリックして下さい。

管理者パスワードの入力を行い【OK】をクリックして下さい。



※パスワードの初期値は“0000”です





登録号車を間違えないように必ず確認して下さい。

「拡張機能」を表示します。

設定した値を保存します。

設定した値を「設定データ保存ドライブ指定」で指定したドライブのCFカードに書き込みます。

設定値を全て初期値に戻します。

ワンポイント：
ドライブレコーダー本体取り付け台数分の初期設定が終わりましたら、解析ツールで設定した「管理ID」や号車別の「データ設定」のバックアップをお勧め致します。バックアップ方法につきましては、36ページ「データのバックアップ」をご覧下さい。

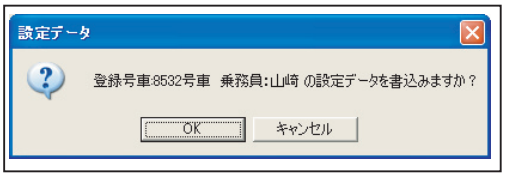
※用語解説は40ページを参照して下さい。

項　目	初期値	設定値	説　明
❶ユーザ登録番号			
登録号車	「データ設定」画面を開いた時は常に、管理IDの番号が一番小さい号車が表示されます。	「号車管理」（15ページ）で登録された号車が表示されます。	設定を行なう登録号車をプルダウンメニューから選択して下さい。 ※CFカードリーダライターに差し込んだCFカードが設定を行なう登録号車と一致しているかを確認して下さい。
❷キャプチャ設定			
画像サイズ設定	VGA	VGA・QVGA	VGA設定の場合、640×320。（推奨） QVGA設定の場合は、320×240。
フレームレイト	15f/s	1f/s・2f/s・3f/s・5f/s・6f/s・10f/s・15f/s	1秒間に撮影を行なう枚数
トリガ後記録時間	10	1～30	トリガ※後の記録時間の設定。単位は秒
カメラ数	1	1・2	本体に接続したカメラ数に設定する。
❸機能設定			
トリガ判定閾値X（しきいち）	0.80	0.01～10.00	X方向（前後）で設定した加速度（G）を超えると記録を開始します。
トリガ判定閾値Y	0.80	0.01～10.00	Y方向（左右）で設定した加速度（G）を超えると記録を開始します。
警報閾値X	0.40	0.01～10.00	X方向で設定した加速度（G）を超えると警報音（音声）を出力します。
警報閾値Y	0.40	0.01～10.00	Y方向で設定した加速度（G）を超えると警報音（音声）を出力します。
音量設定	大	OFF・小・大	スピーカー音量の設定
車速パルス設定	OFF	OFF・ 2・ 4・ 8・10・16・20・25	設定する車両の車速パルス数と合わせます。
取付け角度補正X	0	-15～+15	本体を取り付けた際、X方向（前後）の角度補正を行な行ないます。単位は[度]です。通常は初期値のままにしておいてください。
取付け角度補正Y	0	-15～+15	本体を取り付けた際、Y方向（左右）の角度補正を行ないます。単位は[度]です。通常は初期値のままにしておいてください。
取付方向	正面	正面・背面・右側面・左側面	本体を取り付けた際の取り付け方向の補正を行ないます。
イグニOFF検出時間	0	0～9	エンジンキースイッチがOFFされてから設定時間後に本体の電源が切れます。（単位は秒）

ワンポイント：
初期設定の時は セルに色が付いている 設定項目を十分にご確認下さい。

項　目	初期値	設定値	説　明
画像出力点 A	1	0～（画像記録時間−トリガ後記録時間）	オプション機能です。トリガ時点よりA秒（設定した時間）前の画像が出力されます。設定値0の場合はトリガーポイントの画像を送信します。
画像出力点 B	1	0～トリガ後記録時間	オプション機能です。トリガ時点よりB秒（設定した時間）後の画像が出力されます。設定値0の場合はトリガーポイントの画像を送信します。

以上の必要項目を変更し、❹「設定データ保存ドライブ指定」でCFカードを接続したドライブを指定し【書き込み】をクリックして下さい。



設定を行なう登録号車と、CFカードリーダライターに差し込んだCFカードの登録号車が一致しているかを確認後、【OK】をクリックして操作を確定して下さい。

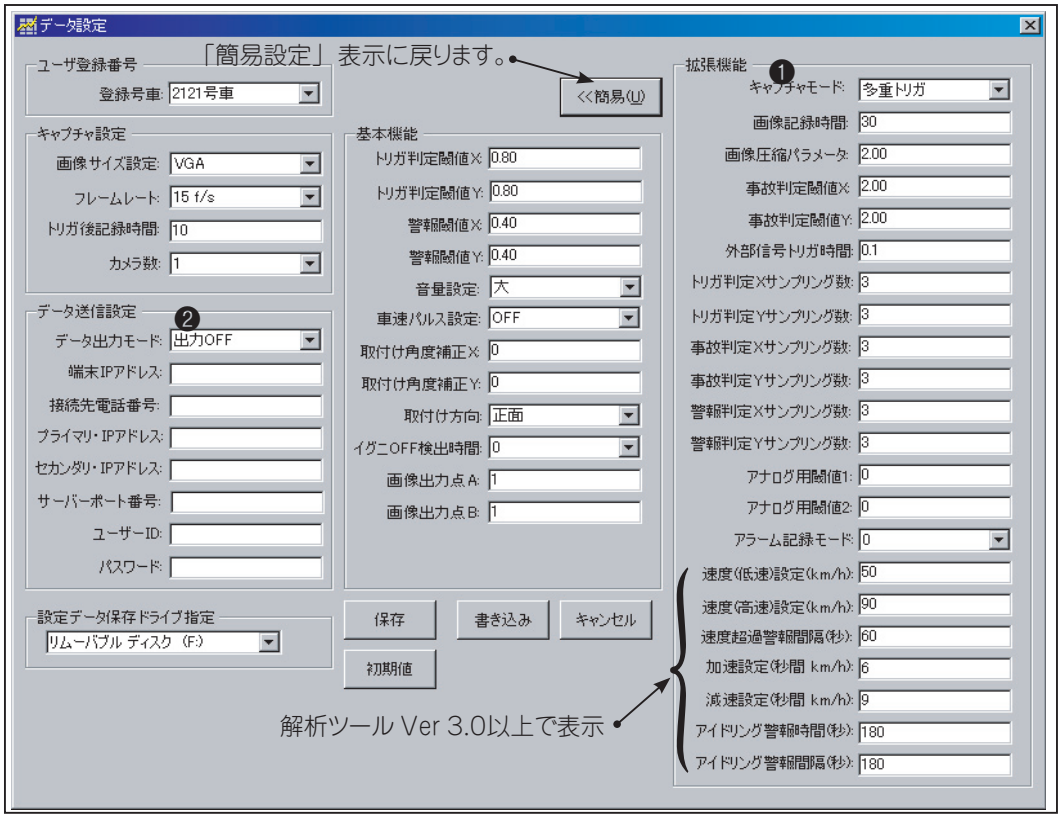
注意：
設定済みCFカード内の設定データは各車両固有のものとなっております。設定済みCFカードを他の車両で使用しないで下さい。正しい記録ができなくなります。

注意：
ドライブレコーダー本体の取付位置を変更した場合は、15ページ参照の上、「管理ID」「号車」や「運転者名」を追加の上、新しい「データ設定」で運用して下さい。正しい記録ができなくなります。

ポイント：
「データ設定」終了後は必ずCFカードへの書き込みを実行して、ドライブレコーダー本体の設定を行なって下さい。

詳細設定項目の説明

「データ設定」（17ページ）で【詳細(D)】をクリックすると以下の画面が表示されます。



項　目	初期値（推奨値）	設定値	説　明
❶拡張機能			
キャプチャモード	多重トリガ	多重トリガ・シングルトリガ	シングルトリガ:トリガ（記録開始のきっかけとなる信号）が発生した場合、その全データがCFカードに記録されるまでは、記録中に別のトリガが発生しても次の記録は行いません。 多重トリガ：トリガ発生後にさらに2回目のトリガが発生した場合、その記録（機能上10秒前後）も行ないます。3回目以上のトリガには対応していません。 例：カーブを曲がる際、一回目のトリガが発生し記録をはじめ、その直後の直線で2回目の新たなトリガが発生した場合であっても記録を行います。
画像記録時間	30	1～30	1回の合計記録時間。単位は秒
画像圧縮パラメータ	2.00	0.10～255.99	値が大きい方が高圧縮率で画像が粗く、値が小さい方が画像がきれいです。 画像ファイルがコマ落ちする（「画像がありません」と表示される）場合はこの値を大きくして下さい。

項　目	初期値（推奨値）	設定値	説　明
事故判定閾値X（しきいち）	2.00［※1］	0.01～10.00	X方向（前後）で設定した加速度（G）を超えると事故として記録を開始します。通常 CF カードの書き込みエリアが不足した場合は、古いファイルから上書きしますが、事故判定閾値を超えて記録されたファイルは上書きされません。
事故判定閾値Y（しきいち）	2.00［※1］	0.01～10.00	Y方向（左右）で設定した加速度（G）を超えると事故として記録を開始します。通常 CF カードの書き込みエリアが不足した場合は、古いファイルから上書きしますが、事故判定閾値を超えて記録されたファイルは上書きされません。
外部信号トリガ時間	0.1	0.1～9.9	設定した時間手動記録ボタンを押し続けると記録がはじまります。単位秒
トリガ判定Xサンプリング数	3［※1］	1～999	X方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、トリガとして判定されます。サンプリング周期：10ms
トリガ判定Yサンプリング数	3［※1］	1～999	Y方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、トリガとして判定されます。サンプリング周期：10ms
事故判定Xサンプリング数	3［※1］	1～999	X方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、事故として判定されます。サンプリング周期：10ms
事故判定Yサンプリング数	3［※1］	1～999	Y方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、事故として判定されます。サンプリング周期：10ms
警報判定Xサンプリング数	3［※1］	1～999	X方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、警報値として判定されます。サンプリング周期：10ms
警報判定Yサンプリング数	3［※1］	1～999	Y方向の加速度（G）が設定したサンプリング数以上連続して閾値を超えた場合に、警報値として判定されます。サンプリング周期：10ms
アナログ用閾値1	0	0～4095	オプション
アナログ用閾値2	0	0～4095	オプション
アラーム記録モード	0	0～2	オプション
速度（低速）設定（km/h）［※2］	50	0（OFF），1～179	速度が設定値を3秒以上超えた場合、速度超過（低速時）と判定します。
速度（高速）設定（km/h）［※2］	90	1～179、180（OFF）	速度が設定値を3秒以上超えた場合、速度超過（高速時）と判定します。

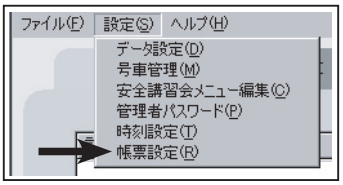
項　目	初期値（推奨値）	設定値	説　明
速度超過警報間隔（秒）［※2］	60	0（OFF），1～999	低速時：「速度（低速）設定」で「速度超過（低速）」と判定してから、設定値の時間が経過すると、一度警報を発します。 高速時：「速度（高速）設定」で「速度超過（高速）」と判定してから、設定値の時間が経過する毎に警報を発します。
加速設定（秒間km/h）［※2］	6	0（OFF），1～99	単位は1秒当たりに加速する速度(km/h)です。設定値を超えると、急加速として判定します。
減速設定（秒間km/h）［※2］	9	0（OFF），1～99	単位は1秒当たりに加速する速度(km/h)です。設定値を超えると、急ブレーキとして判定します。
アイドリング警報時間（秒）［※2］	180	0（OFF），1～999	設定値を超えると、継続してアイドリングしていると判断して警報を出します。
アイドリング警報間隔（秒）［※2］	180	0（OFF），1～999	「アイドリング警報時間」を越えて、更に連続してアイドリングしている場合、設定値の間隔で警報を出します。
❷データ送信設定：全てオプション機能です。			
データ出力モード	出力OFF	出力ＯＦＦ・通信ユニット対応・画像出力	出力OFF：通常は本設定で使用して下さい。 通信ユニット対応：オプションです。 画像出力：オプション機能です。特定の機器に画像を出力するときに使用します。

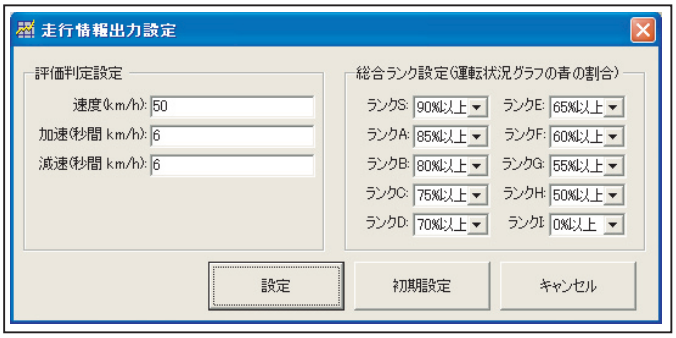
※1：車両別の初期設定値の目安は、40ページを参照下さい。

※2：この設定は解析ツール Ver 3.0以上にのみに有効です。エコ

③「走行情報出力設定」エコ

「設定メニュー」の「帳票設定」をクリックすると走行情報出力の設定メニューが表示されます。



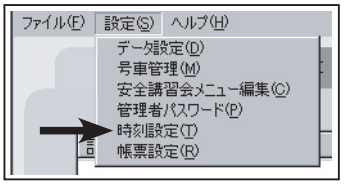


走行情報出力で評価判定の基準となる速度、加速、減速及び総合ランク設定を必要に応じて修正して、【設定】をクリックします。

※内容を初期状態に戻す場合は【初期設定】をクリックします。

④「時刻設定」

CFカードへの時刻設定情報の書き込みと、ドライブレコーダー本体への時刻設定を行ないます。この操作は、ドライブレコーダー本体型式DRE−110にのみ必要です。

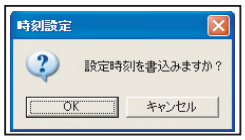


CFカードへの時刻設定

「設定メニュー」の「時刻設定」をクリックして下さい。

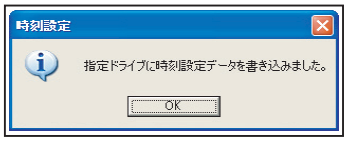
設定する時刻は、時刻設定済CFカードでドライブレコーダー本体を設定する時刻を入力して下さい。変更できるのは、時間と分のみです。

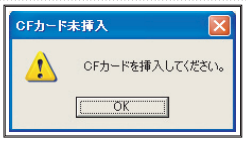
設定をCFカードに書き込みます。「設定時刻保存ドライブ指定」が、CFカードのドライブになっているか確認後【書込み】をクリックして下さい。



【OK】をクリックして下さい。

書き込みが完了すると下の表示がでます。





この表示が出た場合は、「設定時刻保存ドライブ指定」のドライブとCFカードを確認して下さい。

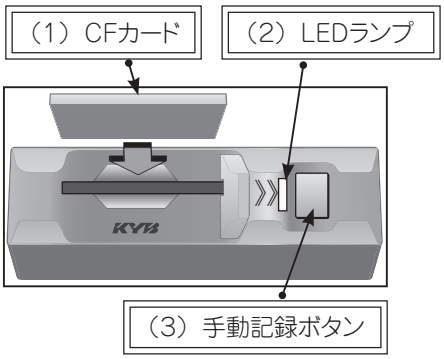
ドライブレコーダー本体への時刻設定

（1）時刻設定済みCFカードを、ドライブレコーダー本体へ挿入し、車両のキースイッチをONにして下さい。

（2）本体LEDランプが、緑の早い点滅になります。

（3）解析ツール「 時刻設定」で、CFカードに書込みを行なった時間に合わせて、手動記録ボタンを押して下さい。

設定が完了すると、LEDランプが緑点灯になります。



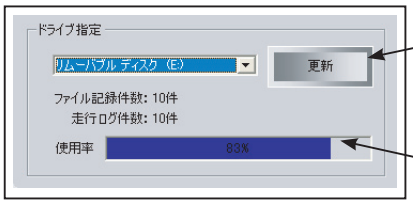
注意：
ドライブレコーダー本体型式DRE−110では、初期設定では必ず、時刻設定を行なって下さい。正しい記録ができなくなります。

「読取」

「読取」画面ではドライブレコーダー本体で記録された画像ファイルを表示し、必要なファイルをコンピューター内に保存します。

記録画像ファイル読取り

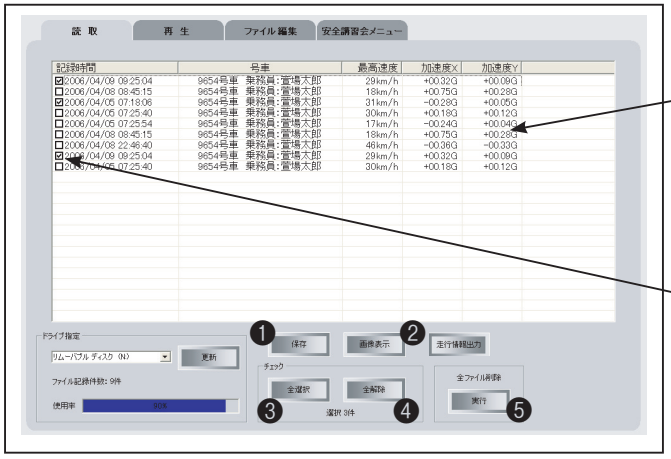
USB ポートにCFカードリーダライターを接続し、画像ファイルが記録されたCFカードを挿入して下さい。解析ツールを起動して「読取」画面内左下の「ドライブ指定」でCFカードリードライターのリムーバブルディスクを選択し、【更新】ボタンをクリックして下さい。（その時点で走行情報ファイルは読み込まれて削除されます。エコ）



CF カード内のデータが読み込まれます。該当するリムーバブルディスクが表示されない場合は【更新】ボタンを再度クリックして下さい。それでも表示されない場合は USB 接続を確認して下さい。

CFカードの使用率が表示されます。

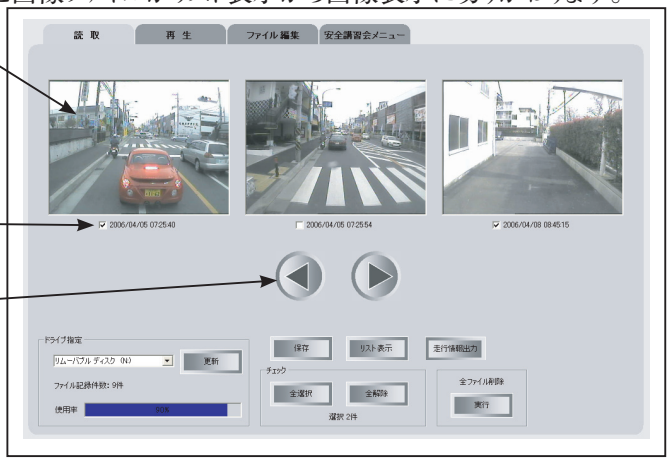
CFカード内の画像ファイルがリスト表示されます。



CFカード内の画像ファイル（記録日時・号車・最高速度・加速度X･加速度Y）が「リスト表示」で一覧表示されます。

“チェック”を入れる欄

❷の【画像表示】をクリックすると画像ファイルがリスト表示から画像表示に切りかわります。



【リスト表示】【画像表示】の両表示方法共に、該当ファイルをクリックすると「再生」タブで再生確認ができます。

“チェック”を入れる欄

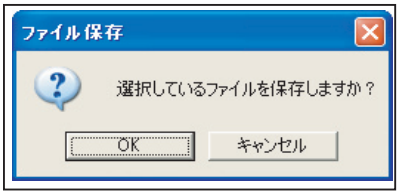
表示する画像が1ページ以上ある場合は、下にある【◀】【▶】ボタンの色が濃い状態で表示されます。ボタンをクリックしてページを移動できます。

【画像表示】や【リスト表示】でCFカード内のファイルを確認し、保存する必要のあるファイルに“チェック”を入れます。

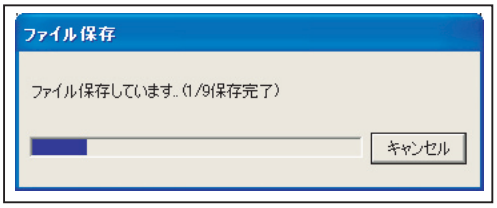
・全てのファイルに“チェック”を入れる場合は❸の【全選択】をクリックして下さい。

・全ての“チェック”をはずす場合は❹の【全解除】をクリックして下さい。

❶の【保存】をクリックすると“チェック”を入れたファイルの保存動作にうつります。



【OK】をクリックすると、ファイル保存が実行されます。

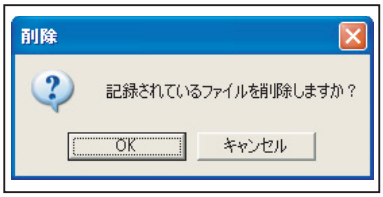


※読み取りには時間がかかることがあります、その間は絶対にUSBケーブルや CF カードを抜かないで下さい。ファイルやCFカードを破損する恐れがあります。

CFカード内の画像ファイル削除

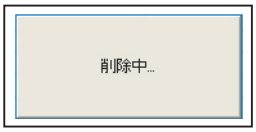
必要な画像ファイルを保存した後は、CF カード内の　ファイル削除を必ず行って下さい。

全ファイル削除欄、❺の【実行】をクリックするとCFカード内に保存されている全ての画像ファイル削除動作に移ります。



【OK】をクリックすると、CFカード内に保存された画像ファイルの削除が実行されます。

※CFカード内の設定データは削除されません。

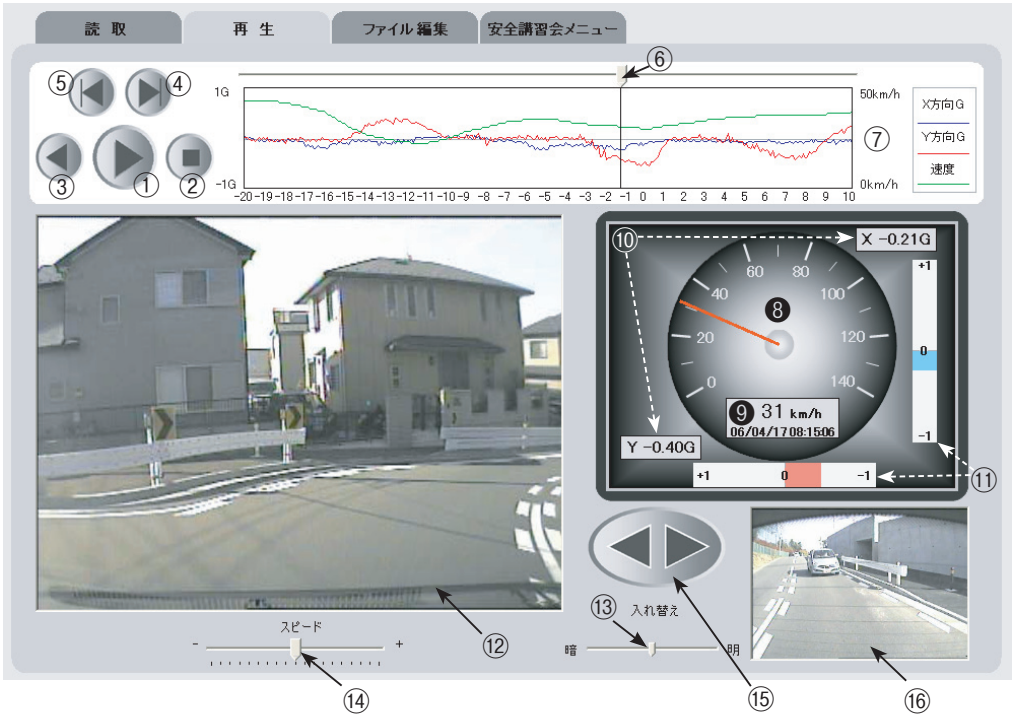


左の表示が出ている間は、USBケーブルやCFカードを抜かないで下さい。

画像ファイル削除には10秒前後かかります。削除終了後CFカードを抜いて、該当車両に CF カードを装着して下さい。

「再生」

「読取」・「ファイル編集」から選択した画像ファイルを再生表示します。



操作・表示一覧

① 再生・一時停止	⑨ デジタルスピード表示と記録日時
② 停止	⑩ X 軸・Y 軸の加速度をデジタル表示
③ 逆再生・一時停止	⑪ X 軸・Y 軸の加速度をアナログ表示
④ ファイルの最後へ移動	⑫ メイン画面、最初はカメラ1の画像を表示
⑤ ファイルの最初へ移動	⑬ 画面の明るさ調整
⑥ 画像表示している位置（時間）を示しています ◆停止中に直接動かすことができます	⑭ 再生スピード調整 ◆再生・逆再生スピードを早めたり、遅くしたり調整します
⑦ 速度（緑色）・X 軸（青色）は前後の加速度・Y 軸（赤色）は左右の加速度を表しています。これらの情報を時系列グラフで表示	⑮ メインーサブの画面入れ替え ◆ボタンをクリックするたびにメイン画面とサブ画面が入れ替わります
⑧ アナログスピードメーター表示	⑯ サブ画面、最初はカメラ2の画像を表示 ◆補助カメラの設定がされていない場合は表示されません

ワンポイント：
⑦の時系列グラフにより、ブレーキやアクセルワーク、ハンドル操作などの運転特性を確認できます。

「ファイル編集」

保存された画像ファイルの検索、重要な画像ファイルの保存や不要になった画像ファイルの削除はこの「ファイル編集」画面で行います。

検索メニュー

対象フォルダを指定した後、検索したい条件にチェックを入れて【実行】をクリックして下さい。チェックを入れた検索条件に適合する画像ファイルを表示します。

保存フォルダ：検索対象のフォルダを指定します。
- 一般フォルダ:「読取」から一般フォルダ内に保存されたファイルを対象に検索を行ないます。
- 安全講習フォルダ：安全講習フォルダ内のファイルを対象に検索を行ないます。
- 重要保存フォルダ：重要保存フォルダ内のファイルを対象に検索を行ないます。
- CDディスク：CD やDVDメディアにバックアップしたファイルを対象に検索を行ないます。（コンピュータの動作環境により表示が異なります）

記録日検索：記録された日にちをもとにファイルの検索を行ないます。検索の開始日と終了日を選択して下さい。

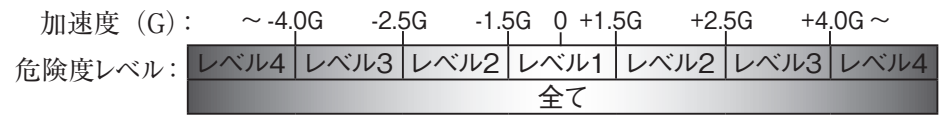
号車検索：記録された号車別にファイルの検索を行ないます。登録されている号車がプルダウンメニューに表示されますので、検索対象車両を選んで下さい。

危険度検索：記録されたファイルの危険度（加速度）をもとに検索を行ないます。

全て：全ての危険度のファイルを検索

レベル1：危険度がレベル1のファイルのみ検索、レベル2：危険度がレベル2のファイルのみ検索

レベル3：危険度がレベル3のファイルのみ検索、レベル4：危険度がレベル4のファイルのみ検索



各フォルダ内、またはバックアップされたメディア内の保存されているファイル全てを参照する場合はチェック欄にチェックを入れずに【実行】をクリックして下さい。

「記録日」と「号車」など検索条件を組み合わせて検索することも出来ます。

新たに号車を追加した場合には Windows の再起動後にプルダウンメニューへ反映されます。

例：
①「重要保存フォルダ」内で、②2006年3月9日から2006年4月19日までの間で、③全ての号車を対象にして、④危険度がレベル3の画像ファイルを検索する場合の設定

画像ファイルの表示・再生

「検索メニュー」より抽出した画像ファイルを表示させます。

画像表示・リスト表示

画像表示では、検索表示されたファイル内のトリガが発生した時点（0秒）の画像が表示されます。

各画像の左上に号車・記録日時が表示されます。

選択された画像ファイルの枠の色が赤に変わります。

表示する画像が1ページ以上ある場合は、下にある【◀】【▶】ボタンの色が濃い状態で表示されます。ボタンをクリックしてページを移動できます。

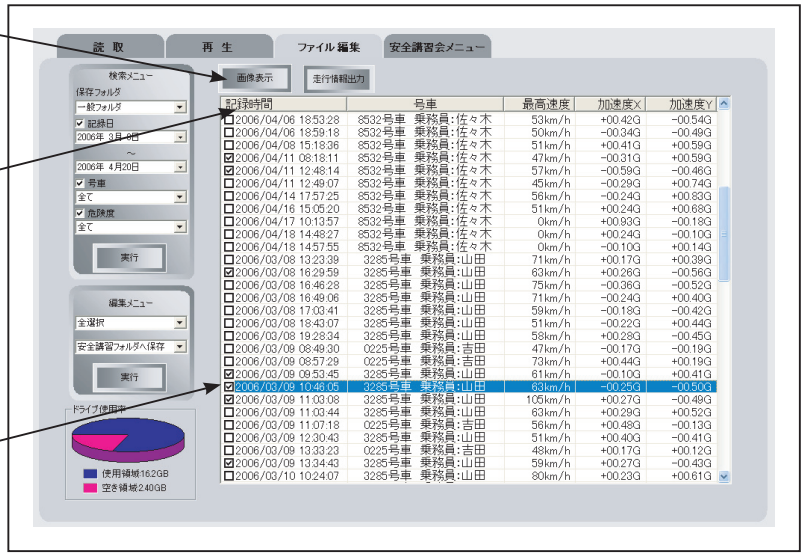
再生したい画像をダブルクリックするとその画像ファイルが「再生」画面に表示されます。

リスト表示では、記録日時・号車・最高速度・加速度X・加速度Yが表示されます。それぞれのリストタイトルをクリックするとソート（昇順・降順）を行なえます。

【画像表示】ボタンを押すと、画像表示へ戻ります。

記録時間・号車・最高速度・加速度X・加速度Y、それぞれのリストタイトルをクリックするとその値でソート（昇順・降順）を実行します。

選択した画像ファイルには“チェック”が入ります。



再生したい行をダブルクリックするとその画像ファイルが「再生」画面に表示されます。

編集メニュー

「検索メニュー」から検索選択した画像ファイルを他のフォルダへ保存移動したり、削除を行ないます。このメニューで、ファイルの整理をすることができます。

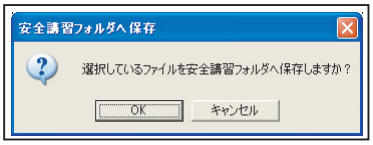
> ワンポイント：
> 安全講習会等で用いる画像ファイルは「安全講習フォルダ」へ保存し、安全講習会終了後は「重要保存フォルダ」へ保存を行なうと運用が容易になります。

全選択：表示されているファイル全てを選択します。
全解除：選択されているファイルの全てを解除します。
　上記の操作はすぐに反映されます。

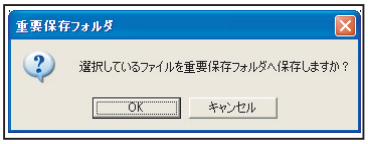
安全講習フォルダへ保存：選択されているファイル全てを安全講習フォルダへ保存移動します。
重要保存フォルダへ保存：選択されているファイル全てを重要保存フォルダへ保存移動します。
選択ファイル削除：選択されているファイル全てを削除します。

【実行】をクリックすると上記操作の確認画面がでます。

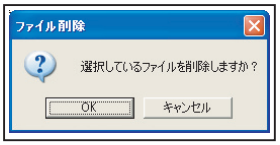
安全講習フォルダへ保存の場合



重要保存フォルダへ保存の場合



選択ファイル削除の場合

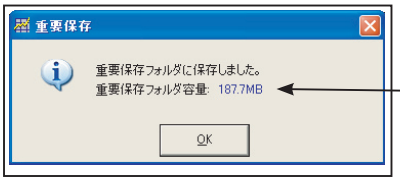


【OK】をクリックすると選択した操作を実行します。

「検索メニュー」内の「保存フォルダ」で指定した条件によって「編集メニュー」で可能になる操作は変化します。

「検索メニュー」内の保存フォルダの選択	「編集メニュー」で可能な操作
「一般フォルダ」内から検索したファイルの場合	・安全講習フォルダへ保存（ファイル移動） ・重要保存フォルダへ保存（ファイル移動） ・選択ファイル削除
「安全講習フォルダ」内から検索したファイルの場合	・重要保存フォルダへ保存（ファイル移動） ・選択ファイル削除
「重要保存フォルダ」内から検索したファイルの場合	・安全講習フォルダへ保存（ファイル移動） ・選択ファイル削除
「CDやDVDメディア」内から検索したファイルの場合	・安全講習フォルダへ保存（ファイルコピー） ・重要保存フォルダへ保存（ファイルコピー）

「重要保存フォルダへ保存」を操作実行した際には以下の案内画面が表示されます。



現在の「重要保存フォルダ」内に保存されている画像ファイルの総容量が表示されます。

この時に「重要保存フォルダ」内の容量が600MBを超えている場合は以下の表示が出ます。

現在の「重要保存フォルダ」内に保存されている画像ファイルの総容量が水色で表示されます。

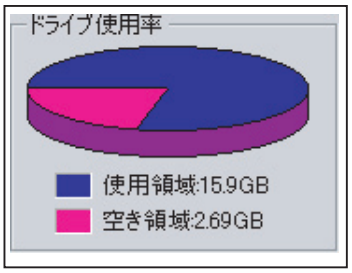
この表示が出ましたら、画像ファイルのバックアップを行なってください。

バックアップにつきましては、36ページ「データのバックアップ」をご覧下さい。

ドライブ使用率

コンピューターのハードディスク（解析ツールをインストールしたドライブ）の容量を確認できます。

「空き領域」が少なくなりましたら、必要な画像ファイルのバックアップと削除を実行して下さい。

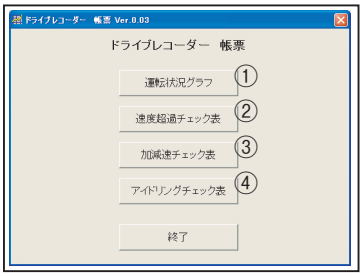


走行情報出力 エコ

本機能は、解析ツール Ver 3.0以上で設定し、本体形式DRE−120で記録されたデータの場合にのみ動作します。

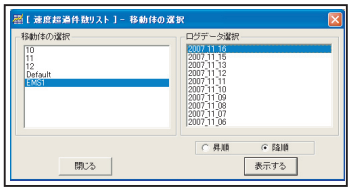
◉「ドライブレコーダー帳票」選択画面表示

❶の【走行情報出力】ボタンをクリックすると「ドライブレコーダー帳票」が表示されます。



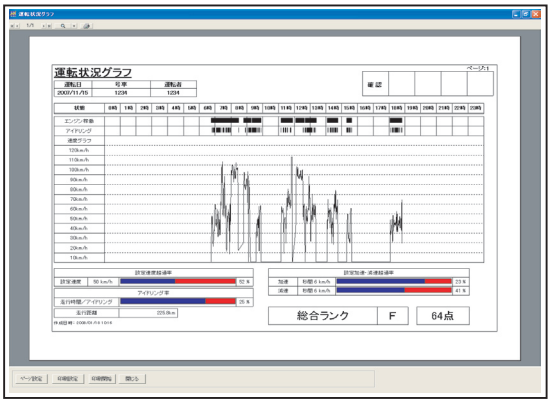
①「運転状況グラフ」の表示と印刷

「ドライブレコーダー帳票」の【運転状況グラフ】をクリックすると、「[運転状況グラフ] −移動体の選択」画面が表示されます。



「移動体の選択」で「移動体の選択（号車）」を選択すると「ログデータ選択」にログデータの一覧が表示されます。このとき「昇順」または「降順」のチェックでログデータの表示順序を変えることができます。

ログデータを選択して【表示する】をクリックすると「運転状況グラフ」が表示されます。

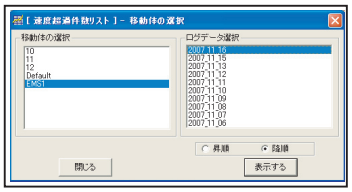


【ページ設定】をクリックすると、余白・用紙方向等の設定が可能です。【印刷設定】をクリックすると、プリンタの選択・用紙の設定等が可能です。必要に応じて変更します。

【印刷開始】をクリックすると印刷を開始します。

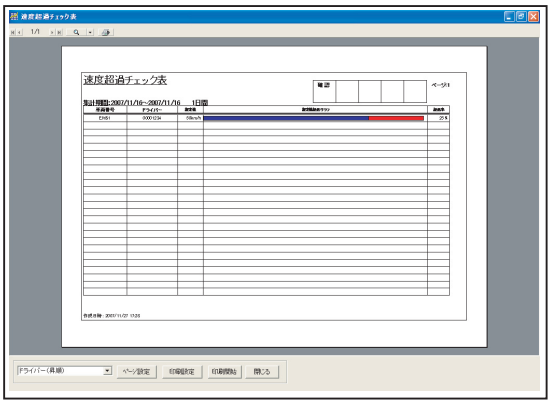
②「速度超過チェック表」の表示と印刷

「ドライブレコーダー帳票」の【速度超過チェック表】をクリックすると、「[速度超過件数リスト] −移動体の選択」画面が表示されます。



「移動体の選択」で「移動体の選択（号車）」を選択すると「ログデータ選択」にログデータの一覧が表示されます。このとき「昇順」または「降順」のチェックでログデータの表示順序を変えることができます。

ログデータを選択して【表示する】をクリックすると「速度超過チェック表」が表示されます。



【ページ設定】をクリックすると、余白・用紙方向等の設定が可能です。【印刷設定】をクリックすると、プリンタの選択・用紙の設定等が可能です。必要に応じて変更します。

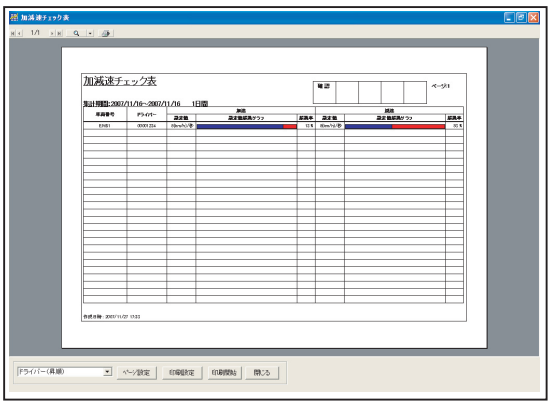
【印刷開始】をクリックすると印刷を開始します。

③「加減速チェック表」の表示と印刷

「ドライブレコーダー帳票」の【加減速チェック表】をクリックすると、「[急加速・急減速リスト] −移動体の選択」画面が表示されます。

「移動体の選択」で「移動体の選択（号車）」を選択すると「ログデータ選択」にログデータの一覧が表示されます。このとき「昇順」または「降順」のチェックでログデータの表示順序を変えることができます。

ログデータを選択して【表示する】をクリックすると「加減速チェック表」が表示されます。

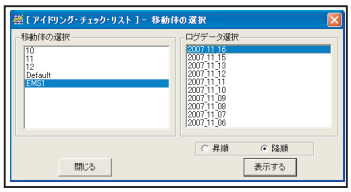


【ページ設定】をクリックすると、余白・用紙方向等の設定が可能です。【印刷設定】をクリックすると、プリンタの選択・用紙の設定等が可能です。必要に応じて変更します。

【印刷開始】をクリックすると印刷を開始します。

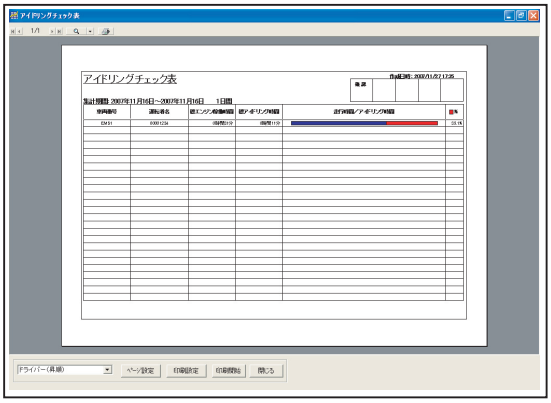
④「アイドリングチェック表」の表示と印刷

ドライブレコーダー帳票」の【アイドリングチェック表】をクリックすると、「[アイドリング・チェック・リスト] －移動体の選択」画面が表示されます。



「移動体の選択」で「移動体の選択（号車）」を選択すると「ログデータ選択」にログデータの一覧が表示されます。このとき「昇順」または「降順」のチェックでログデータの表示順序を変えることができます。

ログデータを選択して【表示する】をクリックすると「加減速チェック表」が表示されます。



【ページ設定】をクリックすると、余白・用紙方向等の設定が可能です。【印刷設定】をクリックすると、プリンタの選択・用紙の設定等が可能です。必要に応じて変更します。

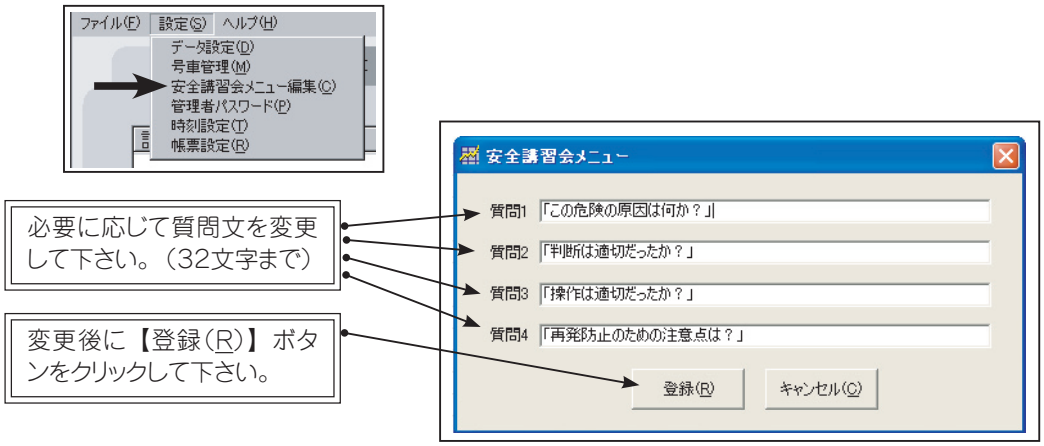
【印刷開始】をクリックすると印刷を開始します。

「安全講習会メニュー」

「安全講習会メニュー」画面は、「安全講習フォルダ」や「重要保存フォルダ」に保存蓄積された画像ファイルを、安全講習会で上映し、画面上に表示した質問文を用いて、ディスカッションを行い安全教育に活用していただくためのものです。

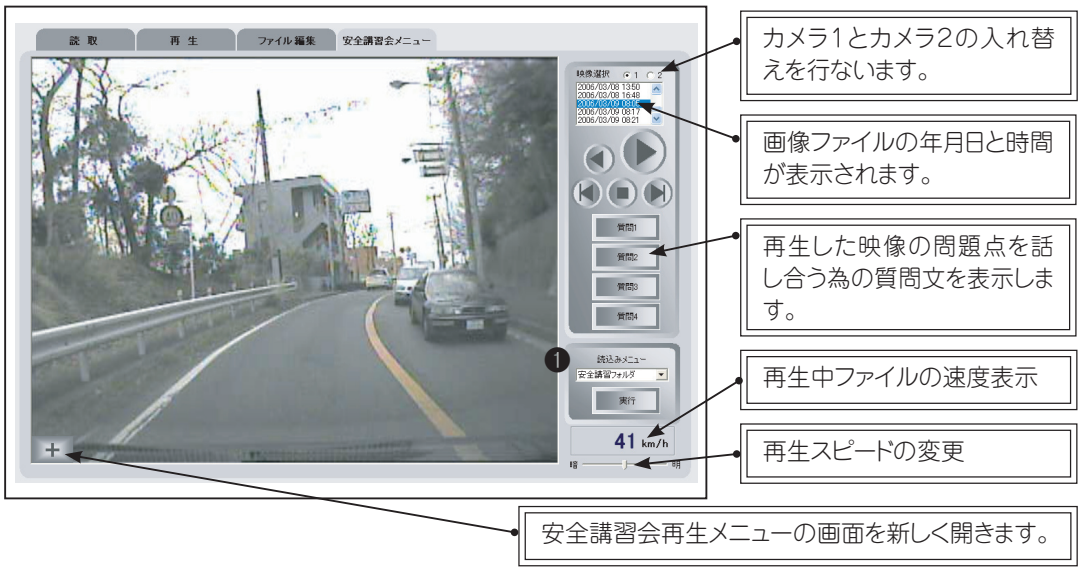
質問文の変更登録

質問文の変更と登録は「設定メニュー」→「安全講習会メニュー編集」をクリックして下さい。



安全講習会の実施

読込みメニュー



❶の「読込メニュー」内にあるプルダウンメニューから「安全講習フォルダ」もしくは「重要保存フォルダ」を選択して【実行】をクリックして下さい。選択したフォルダ内の画像ファイルが上部「映像選択」欄に「年／月／日 時：分」で表示されます。

安全講習会再生メニュー

「安全講習会メニュー」内に左下にある【✚】をクリックすると、安全講習会で用いることができるサイズ調整可能な新しいウィンドウが開きます。プロジェクター等と接続して活用して下さい。

この「安全講習会再生メニュー」の画面を表示している時は、元の画面操作はできません。

画面を閉じるのには❷の【終了】をクリックして下さい。

画像ファイルの再生

「映像選択」欄に表示された画像ファイルをクリックして選択を行なうと、画像ファイル最初の画像を表示します。再生【▶】をクリックして下さい、再生が始まります。

・カメラ2の映像があるときはチェックボックスがアクティブになます。停止中・再生中にカメラ1とカメラ2の画像の入れ替えができます。カメラ2の映像がない場合には選択はできません。

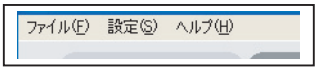
質問文の表示

一時停止中や再生終了後、必要に応じて【質問1】【質問2】【質問3】【質問4】をクリックして質問文を表示させて、ディスカッションを行って下さい。

・質問文の表示の際は画像の色が変更されます。

・質問文の表示を消すには、停止ボタン【■】や再生ボタン【▶】をクリックするか、別の画像ファイルを選択して下さい。

メニューバーの説明

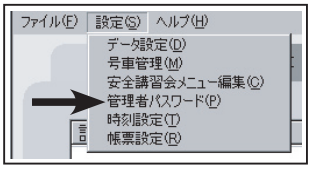


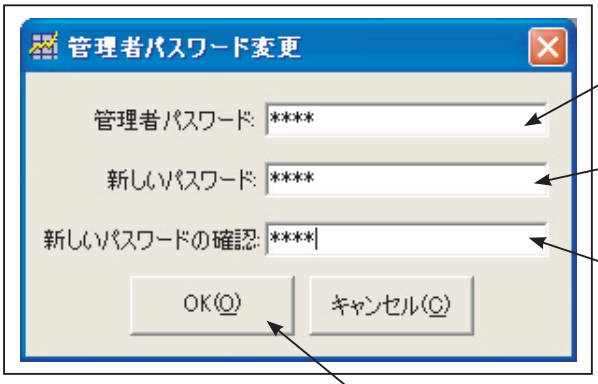
各メニュー内でクリックした場所に移動します。

※印刷は「 再生」画面内の印刷したい場所で一時停止をクリックして下さい。表示されている画像と記録日時・速度・XとYのそれぞれの加速度を印刷することができます。

管理者パスワードの変更

「データ設定」や「号車管理」を行なう際に入力を求められる管理者パスワードの変更は「設定メニュー」→「管理者パスワード」をクリックして下さい。





現在の管理者パスワードを入力して下さい。初期値は“0000”です。

新しい管理者パスワードを半角英数字10文字以内で入力して下さい。入力した文字は“*”で表示されます。

確認の為同じ新しい管理者パスワードを入力して下さい。

設定完了後に【OK(O)】をクリックして下さい。

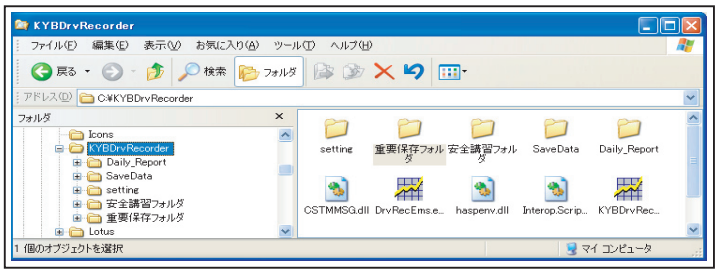
※変更したパスワードは絶対に忘れないようにして下さい。

データのバックアップ

データのバックアップには、ライティングソフト・CD−RドライブやDVD−Rドライブ等・書き込み可能なCD−RやDVD−Rディスク等が必要となります。

※ WindowsXP・WindowsVista にはCDへの書き込み機能が標準で備わっています。詳細は Windows のヘルプ等を参照してください。

CD−RやDVD−R等にバックアップした画像ファイルは「ファイル編集」内の「検索メニュー」より検索・表示することができます。



重要保存フォルダのバックアップ

『C:¥KYBDrvRecorder（デフォルト）』フォルダ内にある「重要保存フォルダ」をバックアップしてください。

バックアップ後は「重要保存フォルダ」内の画像ファイルを削除することを推奨いたします。

設定値・画像ファイルのバックアップ

設定値及び画像ファイルすべてをバックアップする場合は、『C:¥KYBDrvRecorder（デフォルト）』フォルダ内ある「setting」「重要保存フォルダ」「安全講習フォルダ」「SaveData」「Daily_Report」フォルダをバックアップしてください。※使用状況によっては、全てのフォルダが無い場合があります。

バックアップしたフォルダを再度コンピュータで使用する場合は『KYBDrvRecorder』フォルダ内の同じ場所に上書きして下さい。

トラブルシューティング

解析ツール起動時のトラブル

「HASP HL キーが見つかりません。」というメッセージが表示され、解析ツールが起動しません。

・ソフトウェアに同梱されています HASP（ハスプ）キーをUSBポートに接続してから解析ツールを起動して下さい。また、解析ツール使用中に HASP（ハスプ）キーを抜いても同じメッセージが表示され使用できなくなります。

Windows が起動しません。

● Windows 起動時はパソコンのUSBポートに接続してあるCFカードリードライターの設定済みCFカードを抜いて下さい。

HASP（ハスプ）キーが認識されません。

● HASP（ハスプ）キーが認識されず「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示される場合があります。その場合は以下の手順で HASP キーを認識させてください。

①「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面の「一覧または特定の場所からインストールする 」にチェックを入れて【次へ 】をクリックします。

②「検索しないでインストールするドライバを選択する 」にチェックを入れて【次へ 】をクリックします。

③「共通ハードウェア一覧」から「USB コントロール」をクリックして【次へ 】をクリックします。

④「Aladdin USB Key」が選択されていることを確認して【次へ 】をクリックします。

⑤【完了】をクリックすると、HAPS（ハスプ）キーが認識されます。

画像ファイルのトラブル

新しく記録される画像ファイル件数が少なくなってきた。

● 事故判定閾値（しきいち）を超えた画像ファイルは新しい画像ファイルで上書きされません。解析ツールの「読取」で必要な画像ファイルを保存した後は、CFカード内の保存ファイル削除を必ず行なって下さい。〔25ページ参照〕

画像ファイルが保存されていません。

- 電源ケーブルとドライブレコーダー本体の接続を確認して下さい。
- CF カードのフォーマットと初期設定を行なって下さい。「CF カードの初期設定について 」〔10ページ〕を参照して下さい。
- 「トリガ判定閾値」の設定値が大きい場合には、17ページの「データ設定」を参照の上「トリガ判定閾値」XとYの値を“0.10”ずつ下げて試して下さい。
- Windows Vista にインストールした場合、インストール先を『C:¥Program Files』等に変更しますと、アクセスに制限がかかり画像ファイルが保存できなくなる場合があります。そのような場合、解析ツールのアンインストールを行い、その後インストール先を推奨の場所にして再インストールを行ってください。

画像に欠けている部分がある。

- CCDカメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、構造上画素欠けの部分が生じる場合があります。これは　故障ではありません。

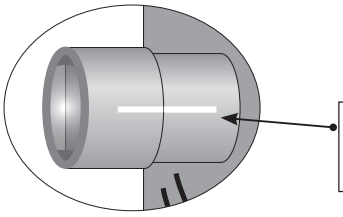
画面全体が白くなる。または黒くなる。

- 暗い場所から明るい場所へ急に移動した場合や、明るい場所から暗い場所へ急に移動した場合など、明るさの変化が大きいと、正常に画像の記録ができないことがあります。

ドライブレコーダー本体で記録されたはずのファイルが見当たらない。

- CFカード内の画像ファイルが一杯になると、古い画像ファイルは新しいファイルで上書きされます。CFカードのファイル保存と削除は定期的に実行して下さい。※「 事故判定閾値」を超えた画像ファイルは新しい画像ファイルで上書きされません。〔20ページ参照〕

画像のピントが合っていない。または画像が不鮮明である。



カメラレンズの左横にあるマークを合わせて下さい。
※この時にレンズを手で触らないように気をつけて下さい。

画像ファイルの再生時間が30秒より少ない画像ファイルがある。

- 20ページの「詳細設定」を参照の上「画像圧縮パラメータ」の値を初期値の“2.00”に戻して下さい。
- 二重トリガの場合、二回目のトリガのタイミングにより、トリガ前の記録時間が短くなることがあります。
- 20ページの「 詳細設定」を参照の上「 画像記録時間」の値を“30”に戻して下さい。

再生中に【画像がありません】と表示される。

- 二重トリガ撮影記録の場合「画像がありません」と表示される場合があります。この現象は故障ではありません。
- 20ページの「 詳細設定」を参照の上「 画像圧縮パラメータ」の値を初期値の“2.00”に上げて下さい。

多少の衝撃で記録が開始されてしまう。

- 17ページの「データ設定」を参照の上「トリガ判定閾値」XとYの値を“0.05”ずつ上げて試して下さい。

信号機の青や赤ランプが速く点滅している画像がある。

- LEDランプを使用している信号機は人間の目では認識できない速さで点滅しています。撮影カメラで

記録されたファイルではその点滅が記録される場合があります。この現象は故障ではありません。

ドライブレコーダー設定のトラブル

画像ファイルのスピードが0kmのまま動かない。もしくはスピードが正確でない。

① 17ページの「データ設定」を参照の上「車速パルス設定」の値を“8”に設定して下さい。
② 15ページ「設定手順」の③を参照して、ドライブレコーダー本体に書き込んで下さい。
② 時速40㎞で20秒間程走行し手動記録ボタンを押して下さい。（運転者以外の方が操作を行なって下さい）
③ 解析ツールで記録された画像ファイルのスピードを確認して次の通り設定して下さい。

スピード	「車速パルス設定」	スピード	「車速パルス設定」
10㎞	“2”に設定して下さい	80㎞	“16”に設定して下さい
20㎞	“4”に設定して下さい	100㎞	“20”に設定して下さい
40㎞	設定の変更は必要ありません	125㎞	“25”に設定して下さい
50㎞	“10”に設定して下さい	0㎞	車速の配線を確認して下さい。

④ 再度①から③の作業を繰り返しスピードが正しく設定されたかを確認して下さい。
※「取付説明書」もあわせてご確認下さい。
※輸入車及び一部国産車は車速パルス形式が異なるため、車速が正しく取得できない場合があります。また、車速パルス信号が、アナログの車両は車速を取得することができません。これらの場合、解析ツールにて車速パルスの設定を OFF にしてください。
・DRE−100およびDRE−120：GPSより得られた情報をもとに速度を記録できますが、場合により速度が正確に記録できない場合があります。また、トンネルなどGPSが衛星電波を受信しない場合には速度が記録されません。
・DRE−110：速度の記録はできません。

画像が表示されません。

● カメラのケーブルとドライブレコーダー本体をしっかり接続して下さい。
● 追加カメラでの記録を行なう場合は、17ページの「データ設定」を参照の上「カメラ数」の値を“2”に設定して下さい。

記録の日時が正確でない。

DRE−100及びDRE−120の対処方法
● GPSアンテナをGPS衛星の電波が届きやすい場所に移動して下さい。
● GPSアンテナが障害物により衛星電波を受信していない。障害物を取り除いて下さい。
DRE−110の対処方法
● 23ページの「時刻設定」を参照の上、ドライブレコーダー本体の時刻設定を行なって下さい。

手動記録ボタンを押しても、記録が開始されない。

● 20ページの「詳細設定」を参照の上「外部信号トリガ時間」の値を初期値の“0.1”に戻して下さい。

音声案内がされない。

● 17ページの「データ設定」を参照の上「音量設定」の値を“大”もしくは“小”に設定して下さい。

ワンポイント：
解析ツールの設定変更後は、CFカードへの書き込みを実行して下さい。15ページ「号車管理と本体データ設定・時刻設定」を参照して下さい。

音声案内が大きい。

● 17ページの「データ設定」を参照の上「音量設定」の値を“小”もしくは“OFF”に設定して下さい。

車両別の初期設定値目安

設定項目	乗用車	タクシー・バン	トラック（4t車まで）	トラック（10t）・バス
トリガ判定閾値（X・Y）	0.60 ～ 0.80	0.60 ～ 0.75	0.50 ～ 0.70	0.47 ～ 0.60
警報閾値（X・Y）	0.40 ～ 0.60	0.40 ～ 0.60	0.40 ～ 0.50	0.35 ～ 0.50
音量	「大」で問題なければ変更なし、音声不要の場合「小」または「OFF」			
トリガ判定サンプリング数（X・Y）	3～4	3～5	4～6	5～7
警報判定サンプリング数（X・Y）	3～4	3～5	4～6	5～7

※事故の記録だけでなく、ヒヤリハットを記録し安全運転の指導用資料として使う場合は、値の低い方を設定して下さい。

※この値は「データ設定」初期設定値の目安としてご利用下さい。

用語解説

用語	解説
トリガ	記録開始のきっかけ（引きがね）となる信号のこと。ドライブレコーダーでは加速度（G）と手動スイッチの2種類のトリガがあります。
キャプチャ	画像をファイルとして保存すること。
閾値（しきいち）	センサーが検出した値の中で、処理を引き起こすのに必要な最小値のこと。ドライブレコーダーではトリガや警報（音声案内）、また事故判定として認識するための最小の加速度（G）の値を閾値として設定します。
フォーマット	CFカードなどの記憶媒体を指定した配列や形式に初期化すること。
ドライバ	周辺機器を動作させるためのソフトウェア。
ＨＡＳＰ（ハスプ）キー	解析ツールのセキュリティのためにUSBポートに差し込む鍵（キー）のこと。ソフトウェアを不正アクセスから保護します。
加速度（G）	一定時間内の速度の変化の割合をあらわします。ドライブレコーダーでは内蔵の加速度センサーにより、衝撃や急加速・急ブレーキ・急ハンドルを数値として記録し、その情報より運行状況や運転特性を判断することができます。
サンプリング	信号の強さを一定時間ごとに採取すること、また信号の強さを採取する周期のことを「サンプリング周波数」と呼びます。ドライブレコーダーでは100分の1秒ごとに加速度を抽出しています。
走行情報	エンジンを始動してからの、走行時間・走行距離・走行速度・加減速・GPSデータ・アイドリングデータ等の情報で、常時記録される。

お問い合わせ窓口：046−268−4262

9：00～12：00、13：00～16：00（土日祝日、弊社休業日、年末年始夏期休暇除く）

発売元：KYB 株式会社 電子機器事業部

東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 8F

Tel:03-3578-1209

URL:http://www.kyb.co.jp/kurumame/

（IE−KM− 06 − 003 − 05）

サポートカルテ

KYBドライブレコーダー解析ツールに関するお問い合わせ窓口：046−268−4262

お問い合わせの前に以下の情報をお調べ下さい。

ご使用のパソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけ詳しくお知らせ下さい。

●ご使用のパソコンの種類：
（メーカー・型番等）

●メモリの容量とCPUのクロック数：
（コントロールパネル→システム→全般タブ内）

● OS 名とバージョン：
（コントロールパネル→システム→全般タブ内）

●ご使用のHASP（ハスプ）ドライババージョン：
（コントロールパネル→システム→ハードウェアタブ内→デバイスマネージャー→ USB コントローラ→ Aladdin HASP Key をダブルクリック→ドライバタブ内　※ HASP（ハスプ）キーを差し込んで確認）

●その他接続されている周辺機器名：

●インストールされているウィルス対策ソフト名とバージョン：

●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
（より正確・迅速にお答えするために、できるだけ詳しくお知らせ下さい。）

製品保証書

品　名	ドライブレコーダー解析ツール	☆お客様	ご住所	〒
☆製造番号				
☆お引渡し日	年　月　日		お名前	（フリガナ） 様
☆保証期間	年　月　日から1ヶ年		電話	

お客様へ：☆印欄に記入のない場合は無効となりますので、製品保証書をお受け取りになる時に、「製造番号」・「お引渡し日」・「保障期間」・「販売店」が記入してあることを確認して下さい。

この保証書は、カヤバ工業株式会社の定める製品保証規定（下記）に基づいて無料修理を行なうことをお約束するものです。

お引き渡しの日から上記保証期間中に故障が発生した場合、本書を添えてお買い上げ販売店へ修理をお申しつけ下さい。

☆販売店

店名	
住所	
電話	

保証責任者　カヤバ工業株式会社　電子機器事業部

製品保証規定（よくお読み下さい）

1. ドライブレコーダー解析ツール取扱説明書に従った使用状態で故障した場合、製品保証書に明記の期間内に故障した場合に無料修理させていただきます。お買い上げ販売店にお申しつけ下さい。
2. 保証期間内でも次のような場合は有料修理になります。
   （1）製品保証書のご提示がない場合。
   （2）製造番号、お引渡し日、保証期間、お客様名、販売店の記入がない場合。又は字句を書き替えられた場合。
   （3）お買い上げの後の輸送、移動時の落下等お取扱いが不適切なため生じた故障及び損傷。
   （4）使用上の誤り及び製品保証書記載の販売店または弊社が指定する修理取扱所以外による修理･改造･分解調整、弊社指定部品以外での部品交換等をされた場合。
   （5）地震・落雷・風水害・火災・その他の天変地異、異常電圧、第三者による行為での故障及び損傷。
   （6）接続しているほかの機器、及び不適切な使用に起因して生じた故障及び損傷。
   （7）付属品等の紛失による交換。
3. 製品保証書は日本国内においてのみ有効です。
4. 製品保証書は、再発行いたしませんので大切に保管して下さい。

※本製品の故障又は使用により生ずる直接、間接の損害及び付随的損害については弊社は一切その責めを負わないものとします。

製品保証書は、製品保証規定に基づき無料修理をお約束するものであり、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

無料修理期間経過後の修理・交換等につきましてはお買い上げの販売店にお問い合わせ下さい。